

レジリエンスマップで住民のレジリエンスアップ！

神奈川県寒川町（町長）木村俊雄、(拠点づくり部田端拠点づくり課長)米山紀一

キーワード

レジリエンスマップ、防災、最新の基盤地図情報、リスク情報の開示

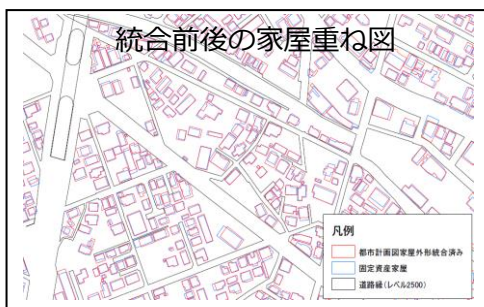
レジリエンスマップ

激甚化する近年の災害において、ハード対策を中心とした公助に頼るだけでなく、ソフト対策を推進するための自助・共助の重要性が増しています。しかし、現実には災害リスクの高い地域に住んでいながら、そのリスクを十分知らないまま災害に巻き込まれる事例も後を絶ちません。行政が公開する地図が古いことに加え、リスク情報が住民に分かりやすく開示されていません。さらに、様々なデザインや内容の地図が世の中に溢れているために、本当に信頼できる地図が分からず、住民が身の回りのリスクを理解できないまま生活していることが原因の一つになっているのではないのでしょうか？

神奈川県寒川町は、住民が平時も災害時も安心して使える地図である「レジリエンスマップ」を整備し、インターネットで公開しています。「レジリエンスマップ」は、最新の基盤地図情報をベースに、寒川町が把握している軟弱地盤や戦時中の毒ガス製造跡地などのリスク情報を表示した地図です。この「レジリエンスマップ」のベース地図は、国土地理院との協定により、最新の基盤地図情報が使われているとともに、同じ地図が、政府の防災情報システムである DiMAPS でも使われているので、平時のみならず災害時にも被害情報の容易な理解に役立ち、住民のレジリエンスアップに役立ちます！

最新の基盤地図情報

寒川町は、都市計画基本図と固定資産税家屋図を統合して毎年更新するとともに、国土地理院との協定に基づき、最新の基盤地図情報を相互に活用できるようにしています。この最新の基盤地図情報をベースにした共通の地図上に様々な行政情報を表示できるようにしているため、住民は平時はもちろん災害時にも安心して地図を使い、レジリエンスアップを図ることができます。



リスク情報の開示

行政が持つリスク情報を分かりやすく開示することで、住民が自ら災害に備え、災害時にも自ら命を守る行動を取ることができるようになります。このため、寒川町は土地条件や明治期の湿地の範囲などの自然地形の情報はもちろん、戦時中に毒ガス製造を行っていた海軍工廠跡地や自然災害伝承碑などの情報をレジリエンスマップで住民に開示しています。

